毎日寒い！
12号
2001 Feb.

NOPPO FUN
Monthly News

発行所
Noppo
編集・監修
のっぽ公報班

動物絶滅の危機 Vol.2

先月に引き続き、絶滅危機にある動物の記事です。今月は、動物が絶滅する原因を調べてみました。

動物が絶滅する原因

動物が絶滅してしまう原因は次の物が上げられます。

■開発による破壊 -

ゴルフ場、住宅による開発、使い捨ての紙製品、割り箸などの生産などによって、森林を始め、動物達の生息地である自然が破壊されています。

中には生息地を失って泣き叫ぶゾウ、生息地を分断され、親と離れ離れになったオランウータンの子供などもいるそうです。

■農薬生活排水による水質汚染

約八〇%～九〇%の魚や貝のメスがオス化し、オスがメス化しているのをご存知ですか？それらの数の減少を突き止めていく上で分かった事実です。

農薬や化学物質（缶づめや、プラスチックからでています）による生殖器の異常。五〇メートルのプールにたった一滴の化学物質。そんな濃度でオスの貝や魚は、メス化し、メスはオス化しているのです。

■乱獲 密猟

ワシントン条約により、象牙取り引きなどは一切禁止されていますが、悲惨な密猟は後を断ちません。毛皮目当ての密猟や漢方薬の原料としての密猟も、絶滅に追い打ちをかけています。

■温暖化 オゾン層の破壊

■森林伐採

■その他

人間・動物・自然

人間 動物 自然は地球にすんでいる仲間として平等でなければいけないのに、人間のエゴで動物や自然を破壊してる。

今回は、動物の絶滅危機について調べたけど、結局原因は自然破壊などの問題と同じで「人間のエゴ」による行動が引き起こしたものが主だった。

二一世紀は、人間 動物 自然の共生を一人一人が真剣に考えて行動していかなくてはいけないのではないでしょうか？

影響します。

人間にも現象、異常なでて子宮などです。

子供たちが大人になる頃、魚や動物たちの数はどうなっているのでしょうか？

有明海苔の不作

最近のテレビのニュースで「有明のりの不作」が報道されています。諫早湾の潮受け堤防との関係があるのではないかといわれているので調べてみました。

諫早湾周辺では、諫早湾潮受け堤防の工事着工後から周辺のアサリ タイラギ漁は収穫が無く、今も休漁に追いこまれたままである。稚貝の生育も見られない。赤潮も発生し、「これだけの魚がいたのか」と漁民も驚くほど大量の魚が死滅した。干潟は「産卵の場所」であることを裏付けるように、稚魚も大量に浜に打ち上げられた。被害はアサリやワカメの養殖にも及び、その範囲は広がりつつある。

そして今度は海苔が被害を受けた。いつもは真っ黒な海苔が今年は黄色くなってしまいました。原因はプランクトンの異常発生だといわれています。プランクトンの異常発生原因は究明されていませんが、諫早湾の潮受け堤防が原因ではないかといわれてます。

有明海と諫早湾の位置

研究者の試算によると諫早湾干潟の浄化能力は人口三〇万人分、建設費二六〇〇億円以上の下水道施設に匹敵するといわれている。

海は決して死んでいないはず。閉ざされた水門を開こうとする運動もありますが、一気に開くと諫早湾にたまった汚れた水が有明海に流れてしまうために、有明海全体が汚染されてしまう可能性もあるため、開くにしても慎重に行わないといけない。このような大規模な公共事業を行う際には、もっと議論を重ねて、自然破壊を起こすことは絶対に避けるべきではないでしょうか？

編集後記

有明海全体に影響を及ぼしてしまう諫早湾の干潟の能力には、改めて驚いてしまいました。

PRIVATE